会津の中世

関連講演会

「会津の城」

講師：飯村　均 氏

（元福島県文化振興財団）

令和５年１１月２５日（土）13：30～15：00

福島県文化財センター白河館　講堂

まほろん企画展「会津の中世」関連講演会 2023 年 11 月 25 日 13:30～15:00

会津の城

飯村　均

１　はじめに　「城≒城館」とは

２　会津坂下町陣が峯城跡　　『藍津之城』

３　喜多方市会津新宮城跡　　応永二十七年落城の方形居館

４　三島町元屋敷遺跡　　奥会津・山ノ内氏の居館

５　会津美里町向羽黒山城跡　　蘆名盛氏の本拠

６　北塩原村柏木城跡　　蘆名氏の境目の城

７　おわりに　城郭史の中の会津の城

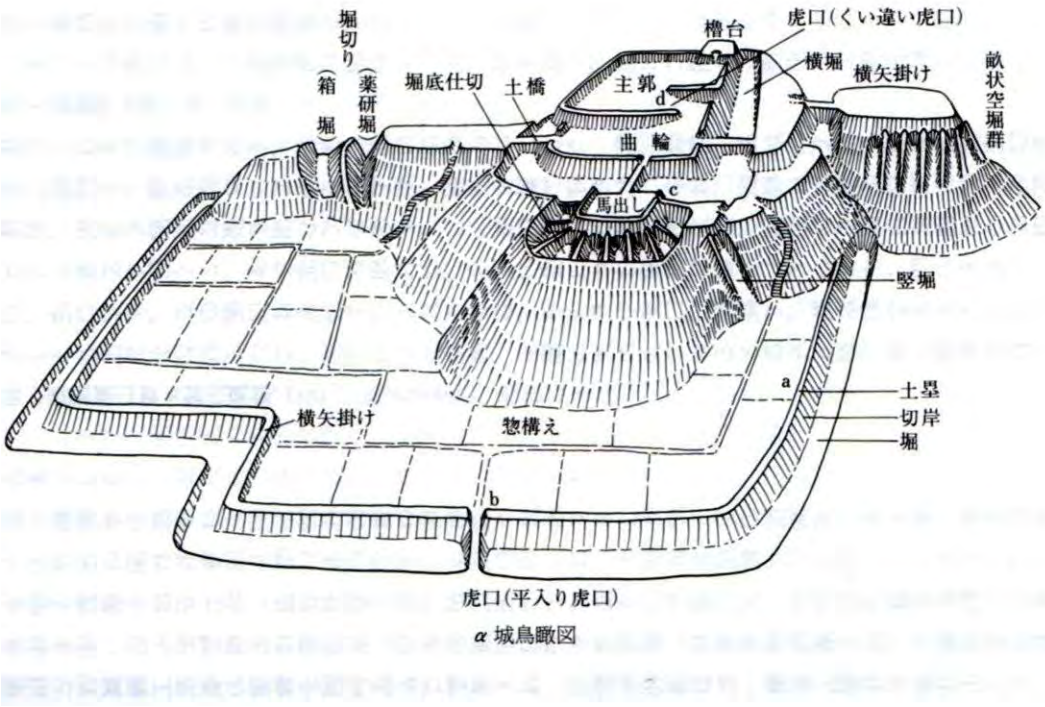


図１　城鳥瞰図（千田他 1993）

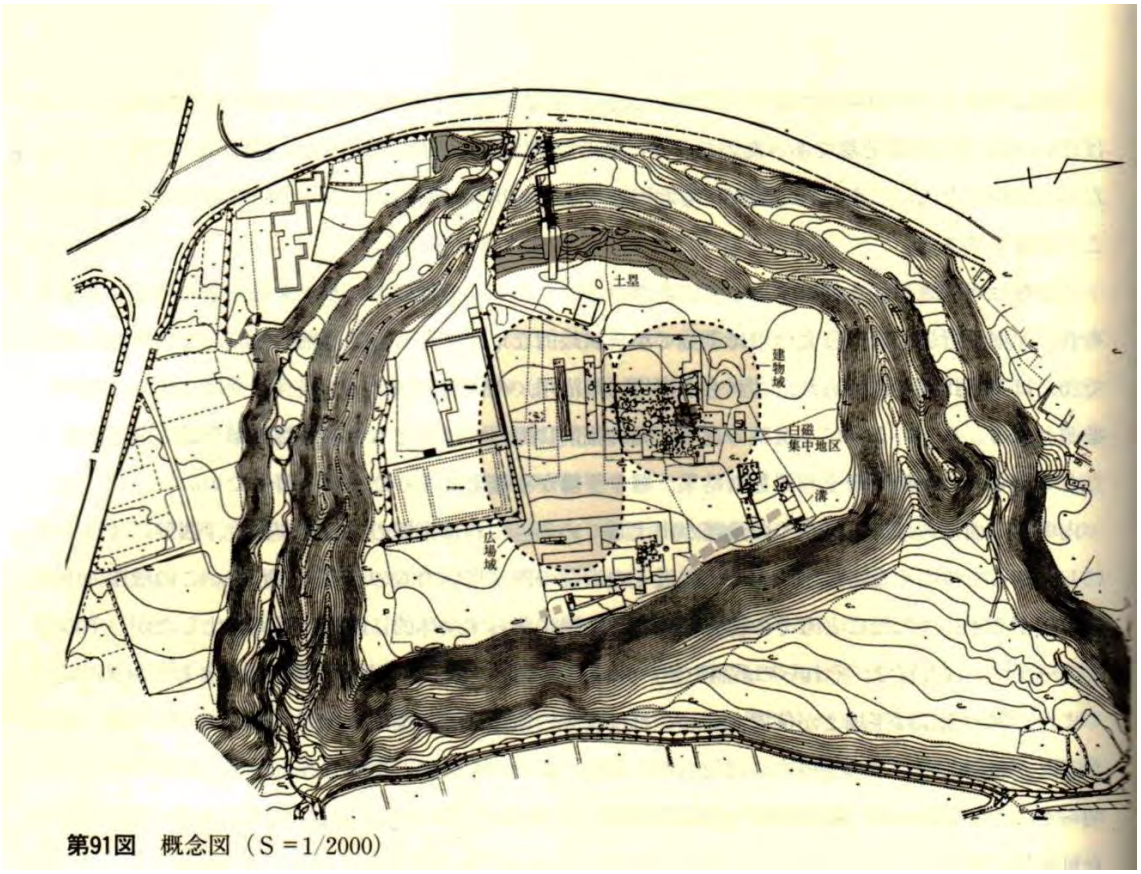
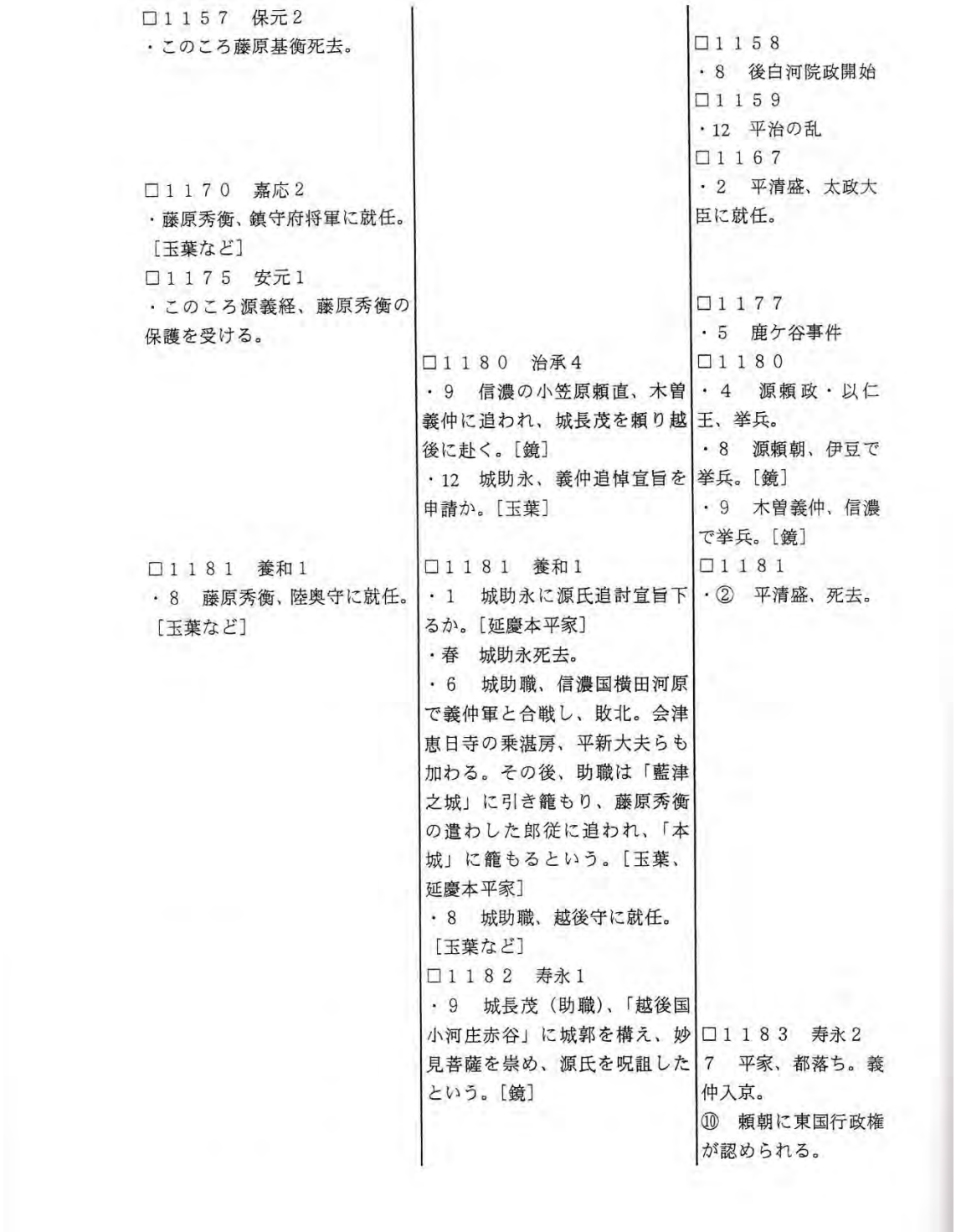


図２　陣が峯城跡概念図(吉田他 2005)



□１１５７　保元２
・このころ藤原基衡死去。

□１１５８
・８　後白河院政開始
□１１５９
・12　平治の乱
□１１６７
・２　平清盛、太政大臣に就任。

□１１７０　嘉応２
・藤原秀衡、鎮守府将軍に就任。［玉葉など］
□１１７５　安元１
・このころ源義経、藤原秀衡の保護を受ける。

□１１７７
・５　鹿ケ谷事件

□１１８０　治承４
・９　信濃の小笠原頼直、木曽義仲に追われ、城長茂を頼り越後に赴く。［鏡］
・12　城助永、義仲追悼宣旨を申請か。［玉葉］

□１１８０
・４　源頼政・以仁王、挙兵。
・８　源頼朝、伊豆で挙兵。［鏡］
・９　木曽義仲、信濃で挙兵。［鏡］

□１１８１　養和１
・８　藤原秀衡、陸奥守に就任。［玉葉など］

□１１８１　養和１
・１　城助永に源氏追討宣旨下るか。［延慶本平家］
・春　城助永死去。
・６　城助職、信濃国横田河原で義仲軍と合戦し、敗北。会津恵日寺の乗湛房、平新大夫らも加わる。その後、助職は「藍津之城」に引き籠もり、藤原秀衡の遣わした郎従に追われ、「本城」に籠もるという。［玉葉、延慶本平家］
・８　城助職、越後守に就任。［玉葉など］
□１１８１
・②　平清盛、死去。

□１１８２　寿永１
・９　城長茂（助職）、「越後国小河庄赤谷」に城郭を構え、妙見菩薩を崇め、源氏を呪詛したという。［鏡］

□１１８３　寿永２
７　平家、都落ち。義仲入京。
⑩　頼朝に東国行政権が認められる。

図３　12 世紀略年表（抜粋）（柳原他 2006）

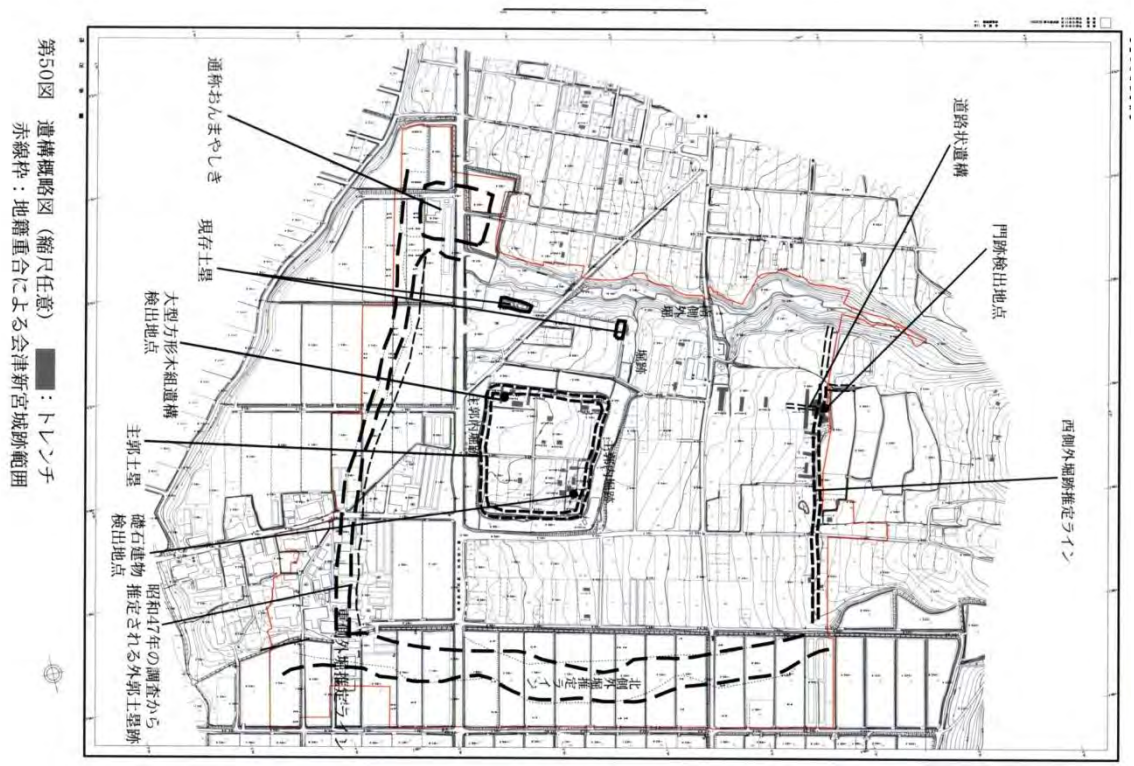
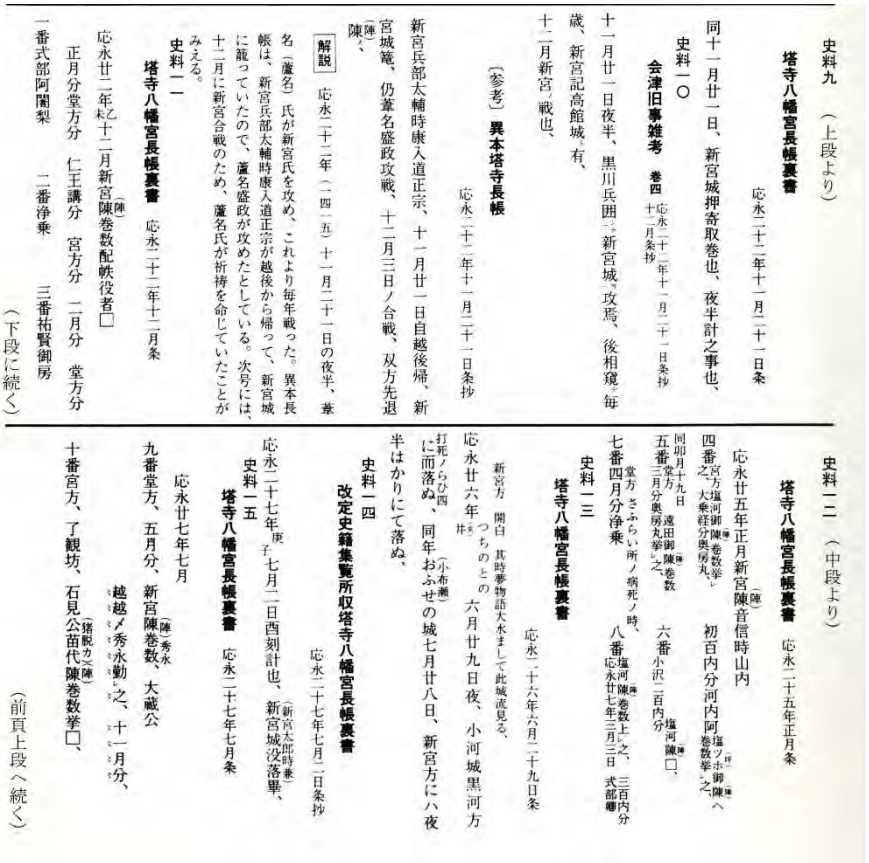


図４　会津新宮城跡遺構概略図（山中他 2008）



史料九　（上段より）

塔寺八幡宮長帳裏書　応永二十二年十一月二十一日条

同十一月廿一日、新宮城押寄取巻也、夜半計之事也、

史料一〇

会津旧事雑考　巻四　（応永二十二年十一月二十一日条抄）

十一月廿一日夜半、黒川兵囲二新宮城一攻焉、後相窺二毎歳一、新宮記高館城一有、

十二月新宮一戦也、

（参考）**異本塔寺長帳**

（応永二十二年十一月二十一日条抄）

新宮兵部太輔時康入道正宗、十一月廿一日自越後帰、新宮城篭、仍葦名盛政攻戦、十二月三日ノ合戦、双方先退（陣）ク、

【解説】　応永二十二年（一四一五）十一月二十一日の夜半、葦名（蘆名）氏が新宮氏を攻め、これより毎年戦った。異本長帳は、新宮兵部太輔時康入道正宗が越後から帰って、新宮城に籠っていたので、蘆名盛政が攻めたとしている。次号には、十二月に新宮合戦のため、蘆名氏が祈祷を命じていたことがみえる。

史料一一

塔寺八幡宮長帳裏書　応永二十二年十二月条

応永廿二年乙十二月新宮陳（陣）巻数配帙役者□

正月分堂方分　仁王講分　宮方分　二月分　堂方分

一番式部阿闍梨　二番浄乗　三番祐賢御房

（下段に続く）

史料一二　（中段より）

塔寺八幡宮長帳裏書　応永二十五年正月条

応永廿五年正月新宮陳（陣）音信時山内

四番宮方塩河御陣（塩ノホリ御陣）巻数挙、大乗経分奥房丸、　初百内分河内阿闍梨巻数挙之、

同卯月十九日　五番堂方　遠田御陣巻数　六番　小沢二百内分　塩河陣□、

三月分奥房丸挙之、

堂方　さゝふらい所ノ病死ノ時、　八番塩河陣巻数上之、三百内分

応永廿七年三月三日　式部卿

七番四月分浄乗

史料一三

塔寺八幡宮長帳裏書　応永二十六年六月二十九日条

新宮方　開白　其時夢物語大水まして此城流見る、

応永廿六年（つちのとの）六月廿九日夜、小河城黒河方（小布瀬）に而落ぬ、同年おふせの城七月廿八日、新宮方にハ夜半はかりにて落ぬ、

史料一四

改定史籍集覧所収塔寺八幡宮長帳裏書　応永二十七年七月二日条抄

応永二十七年庚子七月二日酉刻計也、新宮城没落畢、（新宮太郎時兼）

史料一五

塔寺八幡宮長帳裏書　応永二十七年七月条

応永廿七年七月

九番堂方、五月分、新宮陳（陣）巻数（秀永）、大蔵公

越越（越後）メ秀永勤（つとめ）之、十一月分、

十番宮方、了観坊、石見公苗代陳（猪苗代カ）巻数挙□、

（前頁上段へ続く）

図５　会津新宮城跡関連史料（山中他 2008）

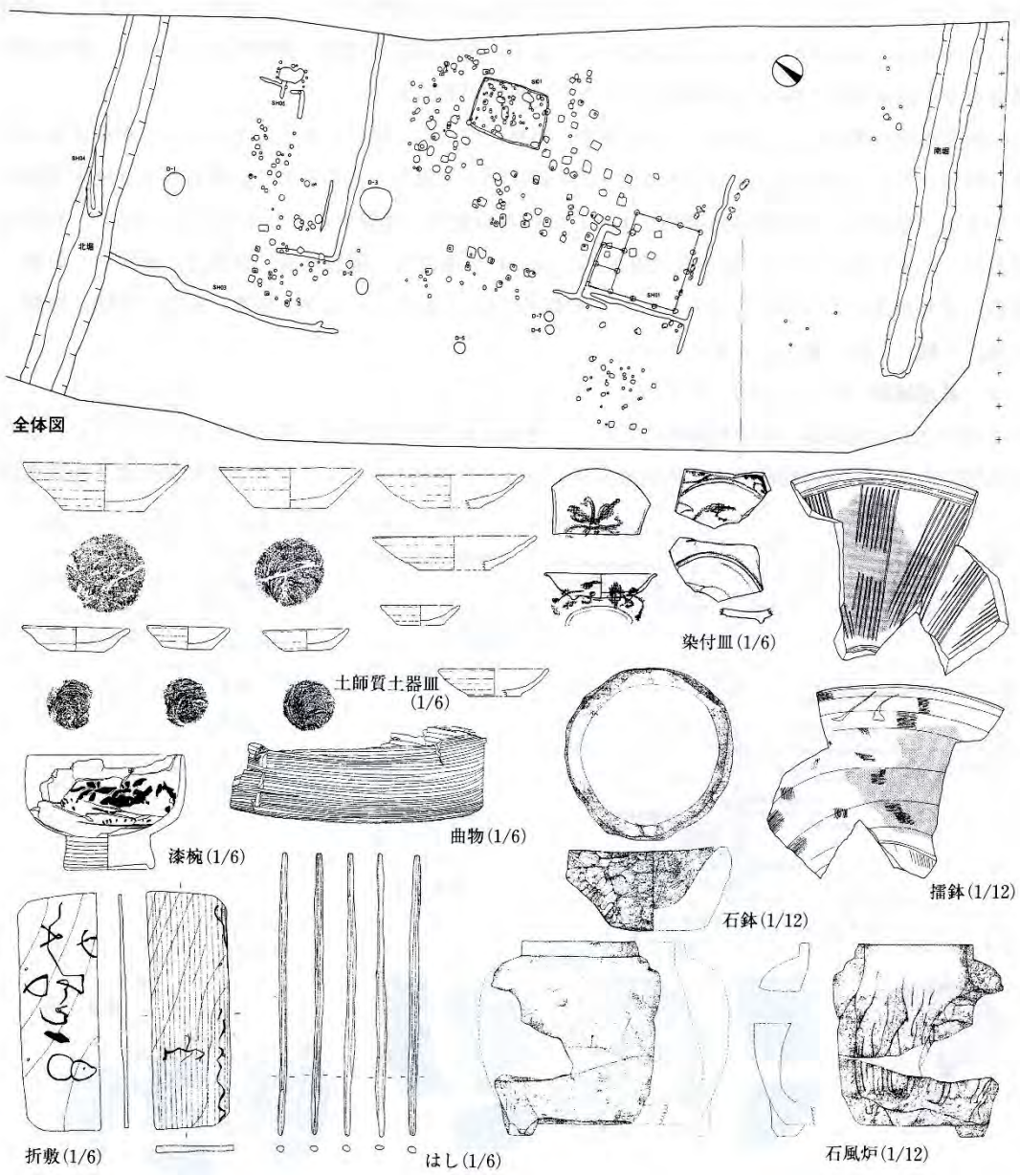


図６　元屋敷遺跡の遺構と遺物（西山 1994）

図７　元屋敷遺跡出土笏谷石製風炉（飯村他 2020）

図 3　向羽黒山城跡地形図

図８　向羽黒山城跡地形図（梶原 2003）

図９　柏木城跡遺構配置図（布尾他 2020）

引用文献

千田嘉博他 1993『城館調査ハンドブック』新人物往来社
吉田博行他 2005『陣が峯城跡　町内遺跡(陣が峯城跡)範囲内容確認調査報告書Ⅰ』福島県河沼郡会津坂下町教育委員会
柳原敏昭他 2006『文化財シンポジウム「十二世紀の奥羽越」報告書』福島県河沼郡会津坂下町教育委員会
島田祐悦他 2009『大鳥井山遺跡―第９次・第 10 次・第 11 次調査-』横手市教育委員会
八重樫忠郎 2015『シリーズ「遺跡を学ぶ」101　北のつわものの都　平泉』新泉社
山中雄志他 2008『会津新宮城跡発掘調査報告書』福島県喜多方市教育委員会
宮澤智士他 2013『文化財シンポジウム　大発見！！長床　解明された建築年代―』喜多方市教育委員会
小柴吉男他 1992『元屋敷遺跡《奥会津山ノ内一族中世の館Ⅱ》―ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書―』福島県大沼郡三島町教育委員会
西山真理子 1994「南陸奥の焼物は何を語るか？―福島県における 15・16 世紀の城館出土の陶磁器から―」『福島考古』第 35 号福島県考古学会
菅原祥夫他 2007『会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告７　高堂太遺跡（２次)』福島県教育委員会・(財)福島県文化振興事業団・国土交通省東北地方整備局郡山国道事務所
飯村均他 2020「陸奥南部の笏谷石製品」『全国笏谷石研究会資料集』
飯村均 2022「奥会津の中世居館が語るもの―福島県三島町元屋敷遺跡の再検討―」『高山流水―赤澤徳明氏退職記念論集―』赤澤徳明氏退職記念論集制作委員会
梶原圭介 2003～2007『向羽黒山城跡Ⅰ～Ⅴ』福島県大沼郡会津美里町（会津本郷町）教育委員会
梶原圭介 2011『史跡向羽黒山城跡整備計画書』福島県大沼郡会津美里町教育委員会
梶原圭介 2016『史跡向羽黒山城跡第 1 期調査整備事業報告書』福島県大沼郡会津美里町教育委員会
布尾和史 2020『柏木城跡』北塩原村教育委員会
北塩原教育委員会 2022『北塩原村の歴史・文化・自然　第 3 集　国指定史跡　柏木城跡』
飯村均 2009『中世奥羽のムラとマチ　考古学が描く列島史』東京大学出版会
飯村均 2015『中世奥羽の考古学』高志書院
飯村均他 2017『東北の名城を歩く　南東北編』吉川弘文館
飯村均他 2021『続・東北の名城を歩く　南東北編』吉川弘文館